

会 議 録

会議の名称及び会議の回	令和6年度 飯田市社会教育委員会議 第2回定例会
開催日時	令和7年3月6日(木)午後6時30分～午後8時50分
開催場所	丘の上結いスクエア飯田市公民館 3階大会議室 A,B
出席委員氏名(敬称略)	今村幸子、今村光利、熊谷弘、後藤正幸、滝澤勇一、竹内稔、 中村由美子、永井祐子、長谷部智子、平田睦美、三浦宏子、森本典子
出席事務局職員	熊谷教育長、秦野教育次長、福澤学校教育課長、北澤学校教育専門 幹、後藤生涯学習・スポーツ課長、下平文化財保護活用課長兼考古博 物館館長、牧内歴史研究所副所長、上沼公民館副館長、筒井文化会館 長兼新文化会館整備室長、瀧本中央図書館長、槇村美術博物館副館 長、本島生涯学習・スポーツ課長補佐兼社会教育係長、矢澤主事、樋 口主事、片桐教育支援指導主事
会議の概要	以下のとおり

※公表の会議録には、正副座長以外は(委員氏名)を掲載いたしません。

1 開 会

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐)

それでは、令和6年度社会教育委員会議第2回定例会を開会いたします。

前段の進行をさせていただきます、飯田市教育委員会事務局、生涯学習・スポーツ課の本島です。よろしく願いいたします。

2 あいさつ

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐)

それでは、開会に先立ちまして、熊谷教育長よりごあいさつを申し上げます。

(熊谷教育長)

改めまして、皆様、こんばんは。

仕事の終わりのお疲れのところ、お集まりをいただきありがとうございます。

今日ここでこの会議の前にもう1つの用事があって、5時半頃ここへ来ましたが、まだ外が明るくて、だんだんと日が長くなってきていることを改めて実感しました。その用事というのが、カンボジアスタディツアーで、参加する高校生の激励会に佐藤市長とともに参加をさせていただきました。今年は15名の高校生が、3月20日から1週間出かけるということで、それぞれが願いを発表してくれたんですが、海外は初めてで食と農を見てきたいという思いだったりとか、向こうの教育等を見て自分の視野を広げたいとか、それぞれ課題をきちんと持って参加する姿を見させていただきました。

飯田市の教育委員会としては、来年度から「ムトスの学びで未来をつくる」という言葉をキーワードにして、学校教育も社会教育も進めていきたいと考えています。このムトスの学びとは、飯田市で今まで大事にしてきたムトスの心、結いの心で、それは、こどもたちや市民の皆さん方が、自分の興味を持ったことや

自分の願いを大事にして、探究的に学んでいってほしい、そういう願いを込めて、そのことが自分自身の未来を作るし、地域社会の未来を作るのではと考えて、キーワードにしました。まさに今日の高校生の姿を見ると、自分で、あるいは周りの方に勧められて、カンボジアで学んでいきたいという、そういうムトスの心を持っている姿をみさせてもらい、私たちがエネルギーをもらえるなど感じました。

また、この4月に行われるやまびこマーチでは高校生を無料にするなど、ぜひ若者たちに多く参加してもらって、この地域の力を高めてもらいたいなど思っております。

そういった意味で来年度、大きな方向に向けて取り組むことについて、社会教育委員会議でご意見をいただければと考えています。

事前に資料をお届けしましたので、なかなか読み応えがあつて大変だったのではないと思うわけですが、来年度の取組についてご意見をいただければありがたく思います。

今日はどうぞよろしく願いいたします。

3 報告事項

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐)

それでは次第に沿って進めます。

(1)第2次飯田市教育振興基本計画の後期の取組から(8)令和6年度飯田市児童・生徒読書調査結果報告までを一括ご説明させていただきます。

(後藤生涯学習・スポーツ課長)

それでは、(1)第2次飯田市教育振興基本計画後期の取組について説明をさせていただきます。

概要版を使ってご説明をさせていただきます。

こちらは令和7年度から令和10年度までの4年間の取組ということになります。4年間に何をやるのか、何を目指してやるのかということですが「ムトスの学びで未来をつくる」これをキーワードにして、取り組んでまいりたいと考えています。前回の会議の場でイラストの部分について、お一人の委員からもう少し分かりやすくのご意見をいただきましたので、改めて作り直しました。問いと願いをまず基本に据えて、その上で、好きや得意を見つけて、人同士が共感し合って、未来に向けて地域を愛する人材を育てていくということを図にさせていただいております。

周りを取り囲んでいるリングっぽい形のはムトス飯田のロゴマークです。そちらを使いまして、色が様々あることは人の多様性を表現させていただいて、そういったものを大事にしながら、「ムトスの学びで未来をつくる」を実現していきたいという思いを込めたイラストになります。

できるだけ多くの皆さんの目に触れるような形で、教育振興方針後期の取組をできるだけ多くの皆さんにご理解いただき、進めていけるように周知を図っていきたくと考えております。

あと、重点目標1、重点目標2、そこにぶら下がるアクションプログラムと、そのアクションプログラムを実現していくための事務事業を具体的に書いてあることも今回の計画の大きな特徴となっています。

続いて、(2)飯田市スポーツ推進計画(第3次)についてご説明をさせていただきます。計画の対象期間等につきましては、教育振興基本計画と同じです。基本理念として、スポーツを通じて人と地域が輝く社会(まち)飯田を掲げさせていただきまして、その1から7までの基本目標を置いています。

特に、この第3次で重点的に取り組んでいくものについては赤字で書いてあります。こどもの体力、運動能力の向上、それから2028国民スポーツ大会に向けた準備と気運の醸成、それから、最大の課題で

ごぎいます中学生期の文化・スポーツ活動の充実ということで、学校部活動の地域クラブへの移行にしっかりと取り組んでまいりたいと考えています。あと、こどもの体力、運動能力の向上につきましては、成果指標にごぎいますけれど、こちらの運動能力総合評価のDとEの評価の割合を長野県の平均値よりも低くなるように取り組んでまいりたいと考えています。説明は以上とさせていただきます。

(瀧本中央図書館長)

それでは、第5次飯田市立図書館サービス計画のご説明をさせていただきます。

前回、内容をご説明させていただきましたので、素案から変更のあった点についてのみご説明をさせていただきます。取組1の図書資料情報提供の充実の指標の1番下、3点目に、図書館webサイトの閲覧数を追加しております。図書館協議会の委員さんからの、「忙しいという方が多い中で、来館してなくてもwebサイトから本などの情報を得ていることもある、それも図書館の役割を果たしていることになるので、指標として加えたらどうか」というご意見を受けまして、本文の取組と指標に追加いたしました。

それから、3のこどもの読書活動推進の指標の下2つにつきましては、素案の際にはまだ数値が入っておりませんでしたので、記載をしております。小中学生の自発的な読書に向けた取組についての指標です。小学校6年生と中学3年生の「面白い」、「感動した」、「夢中になった」と思う方に出会えた児童生徒の割合と、授業以外で1週間に30分以上読書をしている児童生徒の割合でごぎいます。

サービス計画に沿って取組を行いまして、多くの市民の方に図書館を利用していただいたり、読書活動を推進したりしてまいりたいと思います。

説明は以上でごぎいます。

(榎村美術博物館副館長)

続きまして、飯田市美術博物館2028ビジョン・基本プラン後期計画についてご説明申し上げます。

前回の会議で概要をお話しておりますので、それ以降変更がありました点について説明させていただきます。上段はビジョンの部分です。これは12年間の計画の本体の部分ということになりますが、重点目標の2につきましては、地域の学術研究、教育機関の一翼を担うべくと表現をしております。前回の案の中では、地域振興の知の拠点の一翼を担うべくとしておりましたが、当計画を策定いたしました。平成29年度の段階では地域振興の知の拠点構想というものの名称が上がっていたのですが、現在は用いておりませんので、地域の学習研究、教育機関と変更させていただいています。

それから、下段の、基本プランのうちの最下段の主な取組に4つ囲みがありますけども、そのうちのピンク色の囲みで人と書いてあるところ。これは人文分野の展示公開の取組を指しておりますけども、田中芳男没後110年など節目に合わせた展示と書かせていただいております。

原案の段階では、この前に南信濃が上村合併20周年という言葉がついており、その後に田中芳男没後110年と記載しておりましたけども、令和7年度に遠山関連の展覧会を行うのですが、合併20周年という名称は使用しないということになりましたので、該当部分の名称は削除してあるということでごぎいます。

続きまして、本文30ページでごぎいます。

下の部分です。後期4年間の活動指標でごぎいますけども、前回まだ決定した数値がなかったのですが、現状に令和5年度の数値を入れてごぎいます。

そして、目標値の部分ですけども、美術博物館来館者数、それから展覧会・市民ギャラリーの観覧者数

につきまして、令和5年度の現状値はコロナによる休館の時期がありましたので、少し数値が減っております。したがって令和元年度、これはコロナ前になりますが、その時の数値を基にしながら目標値を設定しております。この令和元年度の水準に戻して、もう少しプラスアルファをしていきたいと考えています。

それから、講座など参加者数につきましては、こちらもコロナ禍ではあったのですが、逆にコロナ禍において web 配信などが行うということを行いましたので、コロナ以前よりも増えているという状況でございます。これは令和5年度の数値よりも上乘せしていきたいと考えています。

また、31ページ以降にしましては、別表として、今回の策定の経過とこれまでの展覧会の開催状況、そして当会議も含め各会議や市民アンケートで寄せられたご意見とその対応について記載してございます。説明は以上でございます。

(牧内歴史研究所副所長)

続きまして、飯田市歴史研究所第6期中期計画ですが、変更部分を中心に説明をさせていただきます。

前回の社会教育委員会議以降、意見をいただきまして4項目の修正をしております。1点目ですけれども、3ページになります。重点目標2、地域遺産の再発見と利活用の促進の3行目、この文章の主語、述語及び頻出語句の精査をはっきりさせた方が良いのではというご意見をいただきまして、指摘の文書に地域というという言葉が4回ほど進出しておりましたので、記載のように修正をしております。

2点目ですけれども、同じく3ページ、重点目標5の恒久的施設の立地・環境改善に向けた検討の下から4行分の文章を追加してございます。

公共施設への移転に向けた施設環境の検討と合わせまして、歴史研究所が一部代行してきました公文書機能の整備に向けまして、教育委員会及び市長部局の関係部署である部署であるべき姿を検討するという部分を追加しております。

3点目でございますが、9ページになります。連携する相手として挙げました学校につきまして、学校という項目である以上、ここにも大学、短大、専修学校なども連携相手としてあげた方が良いのではないかとご意見をいただきました。飯田短期大学につきまして、研究集会で発表いただいたり、飯田アカデミアへ参加いただくなど、これまで連携した経過もあることから、指摘のとおり、連携する相手として記載を追加しております。

また、この項目では、教育普及活動を重点目標として、次代を担う小中学生、高校生を対象とした出前講座の実施等を特に具体的な記載をしておりますことから、特に教育普及活動においてという部分を付け加えております。

4点目でございますが、同じく連携する相手としまして、4として、研究団体・研究所(大学)と素案ではしておりましたが、この項目から見て、かっこしてまで大学を入れる必要があるのかという、そんなご意見をいただきました。

今回の案では、現在、機関や団体に所属しない個人研究者もいることから、今回研究者の語を追加したわけですが、ご指摘では、(大学)は不要とされましたが、ここでは連携する相手を表記する項目ですので、大学と研究機関と明記するよう修正をしております。

以上4点が大きく変更した、変更した部分でございますけれども、6つの基本方針、5の重点目標、4つに区分しました基本的事業活動の取組に変更はございません。

この計画に基づきまして、より地域に根差した社会教育機関として、市民のための、そして地域に寄与する諸活動のさらなる充実を図るよう取り組んでまいりたいと思っております。

(後藤生涯学習・スポーツ課長)

(6)学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けた推進計画についてご説明をさせていただきます。

背景等につきましては、以前ご説明させていただいたものと同じでございます。目標につきましては、令和8年度末までに休日の学校部活動を地域クラブ活動へ移行するという目標を掲げさせていただいておりました、合わせて平日の学校部活動も可能なところから地域クラブ活動への移行を目指すさせていただいておりました、平日については具体的な時限を定めてはございませんけれども、進めていくということを計画の中に明記しています。

また、具体的な取組は、左下を書いてあるとおりでございますが、生徒のニーズに応じた地域クラブ活動のイメージということで、右下のところに図を書いております。生徒のニーズを3段階に分け、トップレベルの技術向上については、ユースクラブや民間のスポーツクラブ、それから民間の教室等に行っていただく。そして、これまでの部活動と同等の活動については、いわゆる学校部活動レベルの地域クラブや地域クラブで対応してまいりたいということ、それから、文化、スポーツを緩く楽しむという皆さんについては、全市型競技別スポーツスクールやアートの時間等で対応してまいりたいと考えております。図の黄色の部分については、市として一定の支援をしていきたいと予定をしています。

裏面でございますけれども、休日部活動の地域クラブ活動への移行のイメージを時系列で書いてあります。令和7年度以降ですが地域クラブ活動ということで、学校や地区単位でのクラブ活動、それから拠点校の部活動、それから全市・飯伊地区単位の合同練習会、それから全市型のスクールや講座を展開してまいりたいと考えております。

令和8年度末で基本的には休日部活動の地域移行が終了する予定ですので、そこからは平日の地域クラブ活動の移行に入っていくという形になります。特に令和9年度以降は、飯田地域クラブ連携ネットワークを立ち上げまして、お互いのクラブ活動やそれを取り巻く関係する皆様方で情報交換や情報共有を図ってまいりたいと計画の中に明記してあります。

(北澤学校教育専門幹)

続いて、飯田学園構想です。前回の会議の時に説明をさせていただいておりますが、いよいよ令和7年4月から飯田学園構想が第1次方針に基づきスタートするという段階になってまいりました。

変化が激しく先行きが見通しがたいこれからの時代を生きていくこどもたちが、生涯にわたって自らの意思で、また様々な人たちとも協働しながら生き抜いていける力の基礎をこれまで以上にしっかりと、そして確かに育んでいくところの具体でございます。

学園構想を進める上で特に大事にしていきたいところを3つにまとめさせていただいております。

左の方みらい創造科に関わることでございます。みらい創造科は、地域の人たちと関わる体験的な活動を通して、自分やふるさとの良さや可能性に気づき、自分の生き方を考えていく学習を積み重ねることで、こどもたちが自分の人生を切り開いていく力を身につけていきたいというものでございます。

令和7年度中に、各学園の推進組織等において、学校、家庭、地域が連携した話し合いの過程も経ながら検討を行い、令和8年度から具体的な取組を進めていく予定でございます。

続いて、真ん中のところであります異年齢集団による学びや活動の充実、今までも十分行われてはきてはおりますが、これからも継続して行っていく予定であります。

1番右側になります。ムトスの学びという言葉が出てきております。教育長の挨拶の中でも説明させて

いただきましたが、児童生徒の問いや願いを出発にして、自分から進んで学びに向かい、より良い考えや行動を生み出し、さらに学ぼうとする意欲を育んでいきたいと思っております。現行の学習指導要領では、学習者である児童生徒の視点に立った主体的、対話的で深い学びが基軸に据えられております。学園における一貫教育においても、児童生徒の学習意欲を引き出し、様々な集団、そして地域の皆さんと協働した多様な学びの機会を作り、主体的に追求するような、そういう授業づくりを進めていきたいと思っております。教育委員会としましては、これらを推進するため組織機構を改編していきたいと思っております。

(瀧本中央図書館長)

それでは、飯田市児童・生徒読書調査結果報告書をご覧ください。

昨年12月から今年1月にかけて、児童生徒の読書状況を調査して、今後の読書活動推進の取組に生かすための飯田市児童・生徒読書調査を行いましたので、結果をご報告いたします。小学校3年生から6年生と中学校の全学年を対象に調査をいたしました。

2ページをご覧ください。こどもが自分から読みたいと思うには、こどもたちが読書を楽しみと思う体験や知ることを喜びと感じる体験を重ねることが有効というふうに考えています。質問の2から4は、その体験ができていないかを調査したものです。質問1で、「読書が好き」、「どちらかというが好き」というこどもは、小中学校とも8割近くになりました。小学校では、学年が上がるごとに好きの割合が下がっていくという状況になっております。質問3で、「面白い」、「感動した」、「夢中になった」という本に出会った割合は、小学校で80.9%、中学校で73.4%あって、様々な本の名前を挙げていただきました。

4ページと5ページをご覧ください。質問5は、学校の授業以外に1週間のうちのどのくらいの時間本を読んでいるかというもの、質問6は、学校の授業や読書の時間を含めて1ヶ月に何冊くらい読んでいるかを調査したものでございます。質問5で、1週間に一定時間以上自発的に読書をしているという割合は、小学生が45.0%、中学生が42.3%でございました。

質問5の、1週間のうち本を読まない児童生徒の割合と、質問6の1か月に1冊も本を読まなかった児童生徒の割合を比較しますと、質問6の割合の方が10%以上も少なくなっておりまして、自分で自発的に読まなくても、学校の授業や読書の時間などによって読書に親しんでいる児童生徒があることがわかりました。学校での読書時間が大事だということが言えると思っております。

質問7の本を読まない理由については、小学校3年生は「嫌い」や「苦手」が多いのに対して、5、6年生以上になりますと、「ほかにやりたいことがある」、それから「テレビ、ネットの方が面白い」が増加しております。また、「読みたい本がない」という割合も高くなっておりまして、読みたくなるための取組が必要と考えます。

6ページからは図書館利用について聞いております。8ページの質問11をご覧くださいと思いますが、本をどうやって選びますかという質問への回答は、「本棚で選ぶ」に続いて、「友達のオススメ本」という割合が高くなっております。

8ページの5以降は、学校図書館と市立図書館が共同で作った学年別リストについて聞いております。こちらについては、またご覧いただければと思います。

4 協議事項

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐)

続けて協議事項に入っております。ここからの進行は座長をお願いいたします。

(座長)

それでは、(1)社会教育関係各課・館・所の令和7年度取組についてお願いをいたします。

(福澤学校教育課長)

2 ページ目の小中学校キャリア教育推進事業につきましてご説明を申し上げます。

この事業の目的は、自分の育っているこのふるさと、そこのつながりを知り、誇りや愛着を持つとともに、ふるさとに軸足、心根を置いて、グローバルな視点・素養を持つ人材を育成するということを目指しております。

特に令和7年度につきましては、今までも行っております飯田のキャリア教育を、先ほども北澤学校教育専門幹がご説明を申し上げましたが、飯田学園構想の中の特設教科みらい創造科を軸にして進めてまいります。また、地育力を活用したふるさと学習などを進め、地域と協働した体験的な学習、事業所の皆様にもご協力をいただく職場体験などを通じて、児童生徒の生きる力を育ていけるよう取組を進めます。

そのほか、結いジュニアリーダー育成事業やりんご並木育成活動事業、三遠南信中学生交流などを継続して行いまして、学習交流活動を進めてまいりたいと考えております。

活動指標の欄をご覧ください。学園地域コーディネーター配置人数が9人とございます。

こちらは中学校単位で進める9つの学園すべてに令和7年度から、カリキュラム作り、それから運営などを学校、地域とともに進めていただく人材を新たに配置することを計画をしております。

小中学校キャリア教育推進事業の説明は以上になります。

(後藤生涯学習・スポーツ課長)

3 ページの地育力向上連携推進事業からご説明をさせていただきます。

こちらの事業は、いわゆるキャリア教育の推進でございまして、来年度からはみらい創造教育という名前でこれまでやってきたものをさらに深化させて取り組んでまいりたいと考えております。

令和7年度取組のところにも書いてございますけれども、キャリア教育推進フォーラムを来年度も行いたいと考えております。また、各市内の高等学校が探究学習に積極的に取り組んでいらっしゃいますので、相談窓口の一元化によりまして、学びの支援を引き続き行ってまいりたいというふうに考えております。

また、情報誌 Hagu の発行も行っていく予定でございます。

続きまして平和学習・人権教育推進事業でございまして。

平和祈念館がございまして、そちらの展示がより良くなるように展示・活用検討委員会を開催し、委員の皆様からのご意見をお聞きする中で、より良い祈念館となるように進めてまいりたいと予定しております。また、展示のみならず満蒙開拓平和記念館と連携した平和学習の推進や、高校生や若者を対象としたピースゼミも来年度引き続き行ってまいりたいと思っております。

来年度は戦後80年という節目の年にもなっておりますので、そういった意味でも特別展等を行っていきたくて考えております。3月9日にはピースゼミの発表会を予定しておりますので、委員の皆様、是非ご参加いただければと思います。

続きまして市民スポーツ推進事業でございまして。

こちらにつきましては、令和7年度につきましては、やまびこマーチが第 39 回となります。それから、風

越山トレイルマラソン大会が71回という回数を重ねて開催することとなっております。

引き続き、多くの皆さんにご参加いただけるようにPRしてまいりたいと思っておりますし、先ほどのスポーツ推進計画の中でも触れさせていただきましたが、こどもの体力、運動能力の向上に向けてコーディネーショントレーニング教室を引き続き行ってまいりたいと考えています。

続きまして、競技スポーツ振興支援事業でございます。

こちらにつきましては、競技人口の拡大や競技力の向上に取り組む事業でございます。近年特に重点的に行っているのは、全国大会へ出場する選手が増えてきておりますので、そういった皆さんへ激励金を支給したり、市長表敬の調整、活動をWEBを使ってご紹介するという取組として行ってきております。引き続き、来年度についても行ってまいりたいと思っております。

続きまして、文化・スポーツ活動の体制整備事業でございます。

いよいよ来年度から公認地域クラブの認定に入っていきたいと考えておりました。詳細について事務局で詰めているところでございます。具体的には、公認地域クラブについては、会場を優先的に予約ができるということ、それから、要件を満たすクラブについては最大10万円の補助金を交付するということを予定しております。それから、生活困窮家庭の生徒さんがそれを理由に活動ができないということのないように一定の費用の補助をしていきたいということを予定しております。

続きまして2028国民スポーツ大会開催準備事業でございます。

こちらについては、令和10年度2028やまなみ国スポが長野県で開催されるということが決まっております。飯田市では弓道の大会が開催されるほか、軟式野球の大会が行われることになっております。

これに向けて令和7年度には準備委員会を立ち上げまして、その大会の盛り上げを図ってまいりたいと予定しております。また、4月1日からは生涯学習スポーツ課内に推進室を設置して取り組んでまいりたいと予定しております。

続きまして体育施設等維持管理・整備事業でございます。

市内に社会体育施設が44、学校開放施設が56ございますが、これらを計画的に整備していくというものでございます。

令和7年度については、運動公園のプールが整備後30年近く経っておりまして、濾過機の更新を行ってきておりませんでしたので、毎年、計画的に濾過機の更新を行ってまいりたいということでございます。だいたい1つの濾過機を更新するのに5000万ほどかかります。ですので、年次的に更新をかけていくということになります。それから、今年ブルーのスライダーの塗装のし直しをさせていただいて使えるようになりましたが、来年、黄色のスライダーの方も塗装をする予定としております。

それから、体育館やグラウンドの夜間照明のLED化も進めてまいりたいと予定しております。おおむね3年間くらいで更新をする予定で今計画をしているところでございます。

それから、公共施設予約システムを入れまして、自宅からも予約ができるという形に変えていきたいと予定しております。

(下平文化財保護活用課長兼考古博物館館長)

続いて、文化財保護活用課からご説明申し上げます。

文化財保護事業でございます。振興計画の重点目標の2アクションプログラム、飯田の価値と魅力の発信、伝統文化、文化財の保存・継承・活用の推進に位置づけられているものでございます。7年度の取組としましては、考古博物館で所蔵しております古墳出土の鉄製品について、重要文化財の指定に向け

たリスト作成を進めていきます。また、文化財所有者や団体が行う保存継承事業への支援、考古博物館の展示や解説の充実、例えば、これは今日もチラシを配らせていただきましたが、県の埋文センターと連携した速報展の開催や、館内の展示品を解説する職員による映像制作とその活用、あとは速報展示の動画のweb上での公開等考えているとございます。

埋蔵文化財調査事業です。同じアクションプラン等に位置付けられます。今年度に引き続きまして、リニア関連の埋文の調査を主体としていきます。調査地の見学会や速報展を通じて成果を公開するとともに、公共事業等によって破壊されていく記録というのを確実に記録、保存して残していくことをやっていきます。

飯田古墳群保存活用事業です。主な取組としましては、次年度は、上川路にございます御猿堂古墳、前方後円墳で国の史跡ですが、その隣接地の確認調査を進めまして、正規の追加指定の取組を進める、また、地域の皆さんに調査成果を公開していくということを考えているところでございます。

恒川遺跡群保存活用事業でございます。現在、史跡恒川官衙遺跡の隣接地にガイダンス施設の建築をすすめています。7年度につきましては、ガイダンス施設の展示作業を進めてまいります。また、史跡の活用に向けまして、地域と協働して、管理のあり方や、ガイドの育成、人づくりに取り組んでいく計画でございます。

(上沼公民館副館長)

続きまして、令和7年度公民館活動の主な事業について概要を説明させていただきます。

飯田コミュニティスクール推進事業でございます。同事業ですが、各校の学校運営協議会で確認をしました。目指すこども像の実現に向け、学校、家庭、地域が連携協力しながら地域全体で、こどもたちの学びや成長を支える、飯田コミュニティスクール協働活動、地域と学校が連携協力する活動を、公民館が学校と地域をつなげる調整役を担いながら支援をしてまいります。

公民館では、こどもや保護者を対象に、地域の自然、歴史、文化など地域の価値や魅力に触れる学習活動、長期休暇のこどもの寺子屋事業など、小学生が地域に学び多様な世代と交流する授業、また、中学生が地域や公民館の活動に主体的にかかるボランティア活動の支援など、様々な活動を通じまして、こどもたちが地域を知り、理解を深め、地域への愛着と誇りを育んでまいりたいと考えております。

続きまして、多様な学習交流支援事業でございます。同事業ですが、社会環境の変化や価値観の多様化などにより、住民の地域や自治に対する意識、関心が薄くなっていく傾向の中、地域コミュニティの基盤となります住民同士のつながりや協力し合える関係性、また心豊かに住み続けられる地域やその担い手を育むため、地域の歴史、文化など地域資源や特色を生かした学習、また住民の願いや関心事に応える学習など、地域に着目した多様な学習交流活動を推進するものでございます。

公民学活動の様々な場面におきまして、住民が集い対話する場を作り、地域への願い、また関心事を学びを通じて仲間と共有しながら実現や解決に向けて協働的に取り組む、その活動を通じて、自分の願いが叶う達成感や自己有用感を感じる楽しさや地域での役割を実感できる。そのようなつながりや共感を大切に学びや体験を通じて、地域に心根を置きながら当事者意識を持った担い手を育てていきたいと考えております。

続きまして、高校生等次世代育成事業でございます。この事業ですが、地域の将来を担う高校生など若者たちが、地域の多様な主体と繋がりながら、体験的な学びや交流を通じて地域への誇りや愛着を学び、地域や自身の在り方を考えることができる人材を育てていきたいと考えている事業です。主な取組と

しましては、高校生を対象とした高校生講座を地域とのつながりや実践を大切にしながら実施します。

自分たちの地域への理解を深めるふるさと学習や、地域内外の様々な事例や人の思いに触れる現地学習などを、主体性や協働的な学びを大切にしながら進めてまいります。

また、ムトスぷらぎにおきましては、創発コーディネーターマネージャーなどと連携をして、誰もが自由に参加できるふらっと会議や、今年度より取り組んでいます飯田はびねすらぼなど、自身の思いを仲間と共有しながら、その実現に向けた協働的な学びや実践を支援していきたいと考えております。

続きまして、幼児乳幼児親子学習交流支援事業です。この事業ですが、各地区におきまして、入園前の乳児とその保護者を対象にした乳児学級を開催いたします。保護者同士が交流する機会を提供し、子育てに関する情報交換、また悩みの相談、また子育てに必要な知識の習得など、子育てに関する学び合いや、保護者同士、また地域との繋がりをつくる学習活動を発達段階に応じて進めてまいります。学級の運営にあたりましては、各地区の保健師などと連携いたしまして、参加者のニーズまた悩みに寄り添いながら実施をしてまいります。また、父親など平日の参加が困難な保護者の皆さんのために、ファミリーデーなど休日に学期を開催するなど、参加しやすい環境づくりに取り組んでいきたいと考えております。

公民館改修事業費です。これは、公民館施設を施設等総合管理計画に基づいて計画的に改修する事業であります。

公民館維持管理事業につきましては、公民館を安全、安心な環境で使っていくための維持管理に必要な事業となっております。

(牧内歴史研究所副所長)

歴史研究所の令和7年度の事業につきましてご説明します。

最初に、歴史研究所事業でございます。この事業は、第2次飯田市教育振興基本計画後期の取組の中で、重点目標2のアクションプログラム、住民の主体的、対話的な学びの学び合いの支援、飯田の価値と魅力の発信、社会教育施設、スポーツ施設の整備、サービス向上の3つに位置づけられた事業となります。

令和7年度につきましては、先ほどご説明しましたが、第6期中期計画のスタート年にあたりまして、主に重点目標としました地域史研究に関わる人材の育成と教育普及事業の推進に取り組みたいと考えております。研究に関わる人材の育成に向けまして、古文書の中級講座の開設のほか、主催する講座の参加者が高齢者層が多いという状況も踏まえまして、従来の地域史講座、飯田アカデミアなどの開催とともに、次代を担う若年層に学びの場を提供できるように、小中学校、高校での出前講座の実施に向けて取り組んでまいります。

市史編纂事業では、年報のほか、和田の町並みと遠山谷の斜面集落、飯田歌舞伎座をテーマとしました書籍を2冊発行の予定でございます。また、引き続きまして地域史研究の根幹であります地域に残る歴史的価値を持つ資料の収集、整備、保存、公開に向けた活動のほか、研究団体や地域との連携によります調査研究、さらに歴史公文書の保存、公開に向けました関係部署との協議、検討も進めてまいります。

続きまして、歴史研究所管理事業でございます。この事業も教育振興基本計画後期の取組の重点目標2の教育社会教育施設、スポーツ施設の整備、サービス向上に位置づけられた事業になります。7年度につきましては、収蔵場所の確保に向けまして、収蔵庫整備のため、文書棚等の購入と公文書館機能の検討のため、視察の旅費等を今回追加してございます。

(筒井文化会館長兼新文化会館整備室長)

続きまして、文化会館及び新文化会館整備室の事業についてご説明を申し上げます。

文化会館文化芸術事業は、重点目標2に位置づけられている事業になります。事業内容といたしましては、様々なジャンルの舞台芸術を鑑賞する舞台芸術鑑賞の機会の提供や、市民の舞台芸術の創造活動のレベルアップへの取組の支援、オーケストラと友に音楽祭の開催、伊那谷文化芸術祭を飯田文化協会と協働開催するなど、交流や発表の場、その機会を設け、市民の文化芸術活動を支援してまいります。

また、小中学生芸術鑑賞事業については、本物体験の機会を作り、それを後押しするために、小中学校で独自に実施する舞台芸術鑑賞事業に対して助成してまいります。

続きまして人形劇のまちづくり事業は、重点目標2に位置づけられております。この事業は、市民が人形劇の鑑賞や体験、演じることを年間を通じて楽しむことで、人形劇のまち飯田の魅力や価値を高めていくための事業です。人形劇フェスタ2025は、引き続き猛暑対策を行い、安全でもっと楽しめるフェスタとなるよう支援してまいります。また、人形劇フェスタ期間以外に、年間を通じて人形劇を鑑賞したり、演じることを楽しめるような定期的な公演を実施したり、人形劇の実演や体験プログラムを提供できる人材を育成するため、NPO法人いいだ人形劇センターへ負担金を交付してまいります。

続きまして、文化会館管理運営事業は、飯田文化会館と人形劇場の維持管理に要する経費と、鼎文化センターを合わせ3つのホールを適切に利用できるよう、ホール業務を専門家に委託する経費を含む事業になります。この事業は重点目標2に位置づけられておりますけれども、市民の皆様は飯田文化会館を安全な施設としてご利用いただけるよう、引き続き設備の改修などを行ってまいります。令和7年度は、施設の老朽化改善に関わる更新及び修繕に要する施設改修工事も予定しております。

続きまして、竹田人形館管理運営事業は、重点目標2に位置づけられている事業です。この事業は、人形美術の素晴らしさと操る楽しさを市民や多くの来館者に感じていただくことを目的としております。座光寺地区のイベントの折に施設をご案内したり、糸操りの体験教育現場における校外学習の場として施設を紹介するなどして、糸操り人形の魅力を広く知っていただき、入館者の増加やリピーターの確保に努めてまいります。

続いて、川本人形美術館管理運営事業は、重点目標2に位置づけられている事業になります。

この事業は、川本喜八郎人形美術館の管理運営に関する事業で、主な経費は、指定管理者への委託料と、施設の共用部管理費を負担している事業となります。指定管理者であるいいだ人形劇センターにより、川本人形美術館の展示替えや企画展などを計画してまいります。

続いて、新文化会館整備室が進める文化施設整備事業です。こちらは、重点目標2の中の新たな文化芸術活動の拠点づくりに位置づけられている事業になります。

後ほどニュースレターを配布しご説明いたしますけれども、令和5年度に新しい文化会館の整備に関して基本理念、基本構想がまとまり、令和6年度から基本計画の策定に取り掛かっております。

現在、様々な課題が明らかになっておりまして、施設を一体的に整備する方法に加え、施設を複数箇所分散して整備する方法も選択肢として検討することとなっております。

複数の整備方法を検討する必要性が生じたため、令和7年度は引き続き基本計画づくりを進め、建設場所に関しても検討を行う予定となっております。

また、これまでもニュースレター等、適時情報発信をしておりますが、今後も市民ワークショップですとか利用者の皆さんと意見交換をするなど、さまざまな手段で市民の皆さんへの情報を伝える努力を重ねてまいります。

(瀧本中央図書館長)

それでは、図書館からお願いいたします。

図書館事業は、読書活動を通じて地域の学びが深まり、交流が広がることを目指して取組を行います。令和7年に中央図書館が開館110周年を迎えるために、開館110周年記念事業として、市民の皆さんと協働してシンポジウムや図書館の歩み展、ミニ企画を集めた図書館マルシェ、図書館 PR 動画の制作などを行います。また、地域の研究団体や市民の皆さんと一緒に郷土の歴史や文化を学ぶ講座や読書会の開催、目の不自由な方へ貸し出しを行うための録音図書の制作などを行います。

図書購入提供事業では、読書や調べ物など多様なニーズに対応するために、市内各図書館で役割分担をして図書を購入して提供するとともに、本に対する興味や関心が広がる機会づくりや、司書の調べ物支援事例の紹介や調べ物体験講座を行います。また、これまでも、郷土新聞をデジタル化して、図書館内のパソコンで記事の検索や印刷ができるようにデータベース化をしてきておりますけれども、令和7年度も引き続き進めてまいります。

こども読書活動推進事業は、こどもたちの読書の機会が増え、楽しさを知って読書習慣が形成されることを目指して取組を行います。これまでに引き続き、7カ月と、4歳児への絵本プレゼントや、保育所を通じた家庭への絵本の持ち帰り、小学生向けの企画の実施、駅前図書館を中心とした高校生への働きかけに取り組みます。こどもの発達に沿って、本を読んでもらうことや自分で読むことが楽しいと感じられる体験を積み重ねて、読む意欲を育むことができるように、各地区の分館も含め、全館で本との出会いの機会づくりや読書に親しむ環境づくりに取り組みます。

図書館管理運営事業は、図書館を安全に安心して使っていただくための取組で、令和7年度は上郷図書館の照明の LED 化工事などに取り組みます。

(槇村美術博物館副館長)

続いて、美術博物館の事業についてご説明いたします。

美術博物館資料調査研究・収集保管事業でございます。

美術博物館で行っている調査研究の成果について、それを整理して市民の皆様の利用に資することを目的としております。

この調査研究につきましては、地域の方々と一緒に連携しながら継続的に行っていきたいと考えております。

その成果は研究紀要、自然史論集などで公表してまいります。

特に7年度、重点的に進めたい研究事業としましては、田中芳男関連の資料、それから長谷川コレクションの利活用を進めてまいりたいと思っております。

また、ビジョン、プランの方の後期の計画の中にもございますが、資料の登録作業をさらに進めまして、デジタルを使った発信に向けた準備を行っていきたいというふうに考えております。

また、収蔵品の管理保存場所不足というものが美術博物館の課題とありますけれども、そちらを解消する検証も進めてまいりたいという風に思っております。

続きまして、美術博物館展示公開事業でございます。

こちらは伊那谷の自然と文化への理解を深めて、その魅力を発信するということが目的としております。

令和7年度は、美術分野では、企画展「写真家60周年記念展水谷章人の世界」、それから「第25回現代の創造展」を開催する予定です。

水谷章人さんは飯田市出身のスポーツ写真家でございます、飯田市藤本四八写真文化賞から現在行ってます小中高校生写真賞の審査などを行っていただいている先生でございます。

それから、人文分野では、遠山郷に焦点を当てました特別展「山とともに生きる―遠山郷の歩みと暮らし―」を開催する予定でございます。

自然分野では、企画展「高山植物と高山昆虫からたどる 南アルプス博物学の120年」ということで開催予定でございます。

続きまして、美術博物館教育普及活動支援事業でございます。

伊那谷の自然と文化の特性と魅力を美術館を活用して学び合っていただくことを目的としております。令和7年度には、南アルプスエコパーク・ジオパークや、身の回りの自然や地域の歴史をテーマに、例年どおりですが、講座やワークショップなどを開催してまいります。

また、菱田春草や田中芳男といった郷土の先人に関連した展示事業と関連した講座などを開催してまいります。美術学校、写真賞など、こどもたちの創造の可能性を高めるワークショップやイベント、それから総合学習など、小中学校、高校の探究などの学習を連携した出前講座などを行ってまいります。それから、地域の学びを支える研究団体の方々との連携事業の開催や、活動支援によるボランとボランティアガイドの養成などを行ってみたいと考えております。

続いて、美術博物館プラネタリウム運営事業でございます。

ふるさとの自然や文化、星空の持つ魅力に気づき、地域を大切に作る心を育むとともに、地球を見つめ、宇宙を夢見る広い視野と豊かな発想力を養うことを目的としております。令和7年度は、一般投影、予約特別投影、学習投影などを行ってまいります。そして、地域や学校、民間の活動団体との連携による出前講座、観望会などを行ってまいります。また、プラネタリウムに親しんでもらう機会として、プラネタリウムまりを開催します。そして、プラネタリウムの機器更新に向けて予算化の準備を進めてまいりたいと思っております。

続いて、美術博物館管理事業でございます。この事業の目的は、美術博物館の施設や収蔵品について適切な管理を行い、来館者の安心、安全を確保して学びの場を提供することでございます。令和7年度は、特に柳田國男館、日夏耿之介記念館の照明器具のLED化を実施します。また、監視カメラシステムの更新工事、中央監視装置の機器交換などを行ってまいります。また、小中学生、高校生の展示観覧料の減免を継続していくということでございます。

続いて、上村山村文化資源保存伝習施設管理運営事業です。

こちらは指定管理となっておりますが、指定管理者との協働により、まつり伝承館「天伯」と、隣接します山村ふるさと保存館「ねぎや」の管理運営を行ってまいります。令和8年3月31日まで現在の指定管理者と協定を結んでおりますので、次期の管理のあり方についても検討してまいります。また、照明機器のLED化を実施する予定でございます。

南信濃民芸等関係施設管理運営事業です。山をテーマとした学習、講演会を4回、自然・人文分野の研究、成果を基にしたトピック展示を年間4回開催して、活用の推進を図っていきたく思っております。また、施設のあり方と指定管理制度更新の検証をしてまいります。照明機器のLED化を進めていきます。

(座長)

どうもありがとうございました。それでは、皆さん方、お聞きしたいこともあろうかと思ひますし、またご意見もあろうかと思ひますが、どうぞお出しただけたらと思ひますが、よろしくお願ひします。

(委員)

先日創造館の創造展に行ってきたんですね。その時にすごく感じたことが、すごく作品の量が減ったなど。私もあそこで活動してたんですけども、私がやってた頃と変わらない人たちが今もやっていた。それを見て、なんかもっと飯田市として、新しい、いろんな活動をしている人たちを広めるような、生涯自分たちの学びができるようなものがないかなと。図書館なり美博なり素晴らしい活動はしていますが、その中に現れない違う部分の人たちの活動をどうやったら活発にできるのかなっていう、例えば絵とか七宝焼きをやっている人たちが減ってるし、若い人たち自体も減ってるっていうことは、そういう文化がなくなってしまうような気がするんです。なので、私はやっぱりそこは昔から公民館が、その地域の人たちの、そういう自分たちが学びたいっていうところの活動の場だったと思うんですね。なんか今、そのところが弱い気がするんですね。住民も、例えば公民館って登録すれば自分で無料で利用できるんだよっていうこと、場所が借りれるんだよってことも知らない。だから違うどこかの家に行ってお友達のうちでやってるとか、例えばパッチワークとかも友達の家でやってるとか、そういうことだとやっぱり広がっていかないと思うんですね。なので、なんかそういう場を広げて、いろんな趣味、そういうものがこう実り豊かな人生の中でできるようなアクションがどこかで起こせるといいなっていうのを、この間、創造館を感じました。今の創造館で活動されている皆さんは、旧地場産業センターで活動を続けるっていうことですけども、それに限らず、地区でもいいので、繋げていけるようなことができればいいなと思いました。

(座長)

ありがとうございます。ご意見ということでお聞きしておきます。

関連してでも結構ですし、違う視点からでもどうぞ。

(委員)

よろしく願いいたします。6つの方針とか12の柱というのはもう皆さん承知の上なのかもしれませんが、後期の取組で1番中心になりそうなのが、ムトスの学びやみらい創造教育ではないかと私は理解しました。そのみらい創造教育っていうのは、みらい創造科という、小中の義務教育の中のもの、プラスアルファ高等教育の方まで関わってやる、というようなことが書かれていたと思います。そのみらい創造教育の後半、高校生以降の部分が、特にこの地域に残るような人材を作っていくことになるのではないかなと理解しております。私もまちづくりの方に関わっていますが、副委員長を決めないと、委員長を辞められないというような、人材不足が地域に突きつけられているような現状であります。

昔は、PTA だとかあるいは消防団とか、そういう若者たちの集まるところがあって、その中で人脈も作られていきましたが、現在はどの組織もとても弱体化している。私の上黒田には消防団員が3人しかいないという状況で、それでは人脈は作られないなと思います。そうした中で、高校生をどう地域の中に取り込むのかという点でいきますと、公民館事業が考えられます。例えば文化祭をやっているところが多くあるのですが、そういう中に高校生を取り込めないか。露店をやったりとか、あるいは文化的な活動をやったりとか様々な場面があるので、そこに高校生が探究活動の一環として計画の段階から関わることはできないのだろうか。そこで学んだこととか体験したことで地域づくりに関わり「これは僕らでも役立つことができるな」という実感となって残っていくのではないかなと思います。次世代育成事業というのがございますけれども、その中に、「創発活動の支援などを通じて地域に心根を置きながら」とありますけれども、

そこを繋ぐコーディネータ的な役割をどういう風にしていったら人材が育成できるのかってことを真剣に考えていただかないと、それこそ地域が先細りしていくなというようなことを実感として感じております。ぜひ、多様な学習交流支援事業、高校生次世代育成事業、ここを強力に進めていただくことを提言したいと思います。

(座長)

ありがとうございます。竹内さん、要望、提言ということでよろしいですか。
特にお聞きすることではないですね。

(委員)

私も上郷のまちづくりに関わっていますが、女子校の皆さんは桜祭りとかもみじ祭りで店を出すなど、色々関わってくださっています。背後には公民館活動をやっていた人たちがバックアップしていることは承知しております。他には飯田OIDE長姫高等学校の「地域人教育」というのがあるそうですけれども、具体的な姿をちょっと教えていただけるとありがたいなと思います。

(上沼公民館副館長)

公民館から説明させていただきます。

飯田OIDE長姫高等学校の地域人教育ですが、これは、長姫高等学校と、松本大学、飯田市が協定を結びまして、地域の担い手を、地域を愛して地域に貢献する、地域に愛着を持った子どもたちを育むための学習活動として取り組んでおります。高校3年間の中で、まず、1年生は、地域を知る学習をします。2年生では地域に関わっていく学習をして、3年生で、より地域の課題解決に向け実践するような、学習活動を3年間かけて行っております。公民館は、生徒たちと地域をつなぐ調整役を担っておりまして、今、公民館は8つの地区やテーマで高校生たちと地域を繋げまして、まず、高校生たちに地域のことをこう知ってもらおう。地域の特色ってなんだろうとか、資源ってなんだろうっていうものを地域住民との関わりの中で知っていただく。その中で、この地域の資源を生かしてこの地域の魅力をどうやったらPRできるだろうとか、あと地域の課題ですね、これに僕たちどういう形で貢献できるかっていうことを高校生自身が考えて、具体的な形で実践をして、1年間かけて取り組みます。例えば、今年だと川路地区に高校生入っていただきまして、川路の魅力を知っていただく、すぐろくをみんなで作ってみようっていう活動をしていますし、多くの地区が、地域の農産物ですとか果物ですとか、そういうものを上手に使いながら、地域のある企業と連携して商品開発をして地区の運動会でPRしたり、そういうところで、高校生が自ら販売をしたり地域に関わりながら課題や目的を達成するような学習活動を行ってるところであります。

(委員)

義務教育の関係だと市教委を中心に動けるのですが、やっぱり高校となると県との関係になって、その間をつなぐっていうことはなかなか難しいかなと思うのですけれども、今のような具体的な話は、一旦市の方へ話をすれば、そこでコーディネータ的な役割を果たしてもらえるのですか。直接まちづくりが高校へ行くっていうのもなかなかやりにくいところがあるのですけれども、それはどうですか。

(上沼公民館副館長)

もし地域の方で高校生と連携した取組をしたいという意向があれば、ぜひ、公民館に声を聞かせていただければと思います。高校と具体的な活動につなげることも可能だと思いますので、ぜひ活用いただきたいと思います。

また、長姫高等学校に限らず、高校では探究学習への取組が学習指導要領でも必須になってきておりますので、学校や生徒さんから希望があれば、それを地域と繋げるというような役割も今は務めさせていただきます。

(座長)

その他ございますか。

(委員)

自分は今、学校現場にいるからかもしれませんが、先日キャリア教育推進フォーラムに行かせていただいて、去年は女子校で、今年は下農の皆さんの発表を聞いて、ほんとすごいな、素敵だなんて思いました。高校生の探究活動で、今日の説明を聞いても飯田市は応援していこうという思いが伝わってきましたが、発表を聞かせてもらって、中学生に、この学びの姿をぜひ伝えていけたらなと思いました。下農で、3人発表した子たちのすごい生き生きした姿が印象に残っていて、うち1人が東中の卒業生だということで、校長先生にも連絡をして、それから直接本人にもお願いをして、来年5月に東中に来て、東中の子どもたちの総合的な学習、新しく始まるみらい創造科のスタートに向けて、発表をぜひ聞かせてくださいとお願いしたりしました。ああいうことに触れる機会を学校として作ってあげたらなってことを感じました。

公民館大会に行った時、本校の卒業生で今飯田高校1年生の子がパネリストになっていて、話をしてくれました。なかなか難しいこともあるだろうけども、高校生やっぱりすごいなってことを感じました。ぜひ、中学校がそういうことに繋がれるような学校でありたいと思っています。

それから、これも繋がるのかわからないですが、先日、こども美術学校、それから中学校の造形教室の作品展があって、足を運びました。こんなに大勢の子たちがこんなに素敵な作品があるんだっていう、やっぱりそういう場があることって、本当に素敵だなと思いました。こんなこういう活動の場がしっかり応援されてるから続いているんだっていうこと、それも大事にしていきたいと思うし、本校の生徒1人参加してたんですが、その子には「素敵だね」って話はできたんですが、もっとやっぱり私たち学校っていうところを一緒に関わっていけるといいなってことを感じさせられました。飯田学園構想、今日も話を聞いていて、本気になってやらなくてはと感じさせられました。

明日、飯田東学園で、校長、教頭で話し合いの場を持つってことになっているんですけど、合わせて明日昼、学友会、生徒会の役員の子たちとも昼ミーティングをしようっていうことで、一緒にどんなこと、生徒たちの発想でどんなことができるか、ちょっと一緒に話をしませんかっていうことをやろうと思っています。今日話を聞いて、1番自分が思ったことは、これだけみんないろんな計画で本気になっているので、自分たちができるところを頑張らなきゃいけないなってことを感じさせられました。

(委員)

はい。キャリアフォーラムと市の公民館大会のお話、先生がされましたけども、私も、若い人たちがパネリストとなって、コーディネーターさんも素晴らしくて私たちに訴えてくれるものがありました。自分自身にも若い時があって公民館で大変私はお世話になりました。その頃は子育てとか仕事で忙しかったんだけ

ど、40歳になったときに子育てや仕事のことだけじゃなくって、何か社会のことをもっと勉強して役立つような人間になりたいと考える年頃になりました。そうしていたら、公民館の方で伊賀良を広める会という会で、地域のことを知ってる人もまだまだ知りたいことがあり、自分も入らせていただいて、伊賀良の昔話とか、伊賀良かるたの作成ですとか、地域の魅力、資源を再発見する活動をしました。こうした活動がずっと連々と繰り返されてきて、少しずつ未来へと繋がって今があることに感謝する気持ちです。

伊賀良を学ぼう、昔、今、そして未来へという本を、自分が伊賀良公民館長を退任する時に完成させていただきました。制作に10年以上かかりましたけど、こういった活動、地道な活動が地域を愛着に持つ、それをみんなが共有することだと思うんです。

その中で、家族で子どもが育ったり、そして外に出て色々な人と出会って、私が、自分がそうだってあったように、何も能力のない自分ですけれども、多くの方にそうやって出会わせていただいて、地域を愛して生きて今があります。

そして、70歳とか80歳くらいになりますと、足が引っ込むんですね。機会をどのように作って、みんなが生き生きと健康で楽しくね、暮らせるのかってということが大切。学園構想にあるように、住んでる人が地域に愛着と誇りを持って生きていける。利他の精神と感謝の心、これをずっと持ち続けていたら幸せに生きられるんじゃないかと思います。先祖への感謝の心も人間の豊かな成長のためには大事なことだと思います。昔から今、そして未来へつなぐということを考えながら今後は生きていけたらいいなと思います。ありがとうございました。

(座長)

ありがとうございました。時間の関係もございます、よろしいですか。

(委員)

まずは、計画見てですね、ボリュームがある中で、それぞれの課の思いが入ってて素晴らしい。飯田市は子どもたちのために色々ご尽力いただいていることがとても伝わってまいりました。予算もきつと厳しい中色々やりくりされてるんじゃないかなと察します。先ほどの後藤生涯学習・スポーツ課長から出た教育ビジョンの絵ですね。これもう決定ですよ。前回と比べたらとても変わって、ムトスの学びで未来をつくるという文言も含めた中でムトスイメージしたってということでも良くなりました。

子どもたちが減少する中、部活動の地域移行、飯田学園構想、これは大きな柱だと思っております。そうした中でいろんな課題があるかもしれませんが、先生方の負担もちょっと増えるっていう部分もあるかもしれませんが、今の子どもたちとても優秀で、大人たちも先生方もきつと元気をもらうんじゃないかなと思います。やはり大人が作るんじゃなくて、ぜひとも子どもたちの主体、児童会、生徒会中心としながら学校運営に関わる。コミュニティスクールなんかもですね、結構生徒たちがやはり入ってくると、とてもまた変わってくると思いますし、私が12年前、伊賀良小のPTA会長やった時に、ふるさと会議を子どもたちとやりましたがこれも子どもたち素晴らしいと思います。

そういう子どもたちが学校運営やまちづくりに参画するっていうのは、是非ともなんかどこかで入れていただくと大きく変わると思いますし、歴史とか、文化会館に関してもありましたが10年後、リニアを見据えた中で、今の小学生、中学生もおそらく成人を迎えてくう方々もいると思いますから、大人だけの会議にこれからは是非とも高校生も入れたりと、色々されるといいかなともちょっと感じました。高校生は素晴らしい活動をしていますよね。それぞれの学校が3年生になると地域課題に向けて地域の人たちとや

ってるとか、いろんな高校でやってきてる。飯田高校だけちょっとなんか探究の学習者、学習要領でももちろんあるからやってるんだろうなと思うんだけど、新聞に出てこなかったんですが、最近、ハーバードまでいったっていう経験っていうのも、必ず彼は飯田に戻ってくるっていう強い思いでいるということに関しては、やはり地域人教育OIDEだけじゃなくていろんなところでやっているの、そういう土壌が小学校、中学校からあるんじゃないかなと。とてもこの飯田の魅力っていうのを感じております。

ですので、今後ブランドをなんか創造していただくと嬉しいなと思うんです。何を言いたいかっていうと、例えばこの地域の中だけのこの教育のあり方っていうのはとても素晴らしいんだけど、他県から見た時に、じゃあ、飯田に行こうかと教育で移住してくるような、そんな素晴らしいものがある。そのブランド化を今後考えていくととてもワクワクしますし、10年後を見据えた中で、飯田は教育に関してはすごいよと。それは今から作ってかないといかんかなと思っていて、1つ1つの積み重ねがそういうところに繋がってくるのではないかなとも感じたところでございます。

最後、学園構想、私事で大変恐縮なんですけど、ウェルビーイング実践校のTOCO-TONの1つの位置づけで、飯田下伊那は半分以上という部分で素晴らしいなと思うんですが、ここの1人1人にあった学びの実践検討会議の4人の委員の1人でありました。名前のTOCO-TONも、そこで提案をさせていただいたのでございます。うまく行っていくことがとても重要だと思いますので、期待も込めておりますし、また出来る限りいろんなことをしていきたいなとも思っております。

(委員)

明日は風越高校の探究学習の発表会でしたよね。私も関わっておりましたが、長姫の地域人教育も浅井先生の頃から、当初の頃から関わらせてもらったんで、いろんな思いはあるんですが、非常にこの計画が多岐に渡ってるので、大変ご苦労かなと思います。毎回見るとすごくたくさんありますが、それぞれのものを池に落とした石のようにこう波紋が広がっていくかと思うんですが、非常にこう成果が出てくるのは時間がかかります。どうしても教育という世界はタイムラグがあります。それぞれの立場でセルフコンテンツするとかね、腹落ちするためには時間がかかる部分があるかと思うんで、少しゆったりと構えてもらって、教育委員会の職員の皆さんも無理しすぎることなく取り組んでいただきたい。

そういった意味で、毎回必ず予算のキャッシュフローを私は見させてもらっております。

特に、地方で育てられた子どもが中央へ行って活躍をする、みんな外に出ちゃうんじゃないかと思ってたものが、地方に対する恩返しとしてふるさと納税が始まりました。その部分がしっかりと還元されてくのはやっぱり教育の分野かなと思って、今回もそれを必ず見させてもらいます。それは過去の教育の賜物であり、過去の教育の恩返しっていうことを市民も感じられるように見せてほしいかなと。

それを持って巣立って同じ教育を受けた人が地方には残りますので、中央で活躍しただけが立派というわけではありませんので、田中芳男みたいな人が飯田にいても何の活躍の場もないわけですから、同じようにやっていただければいいかなと。

それと、悩ましいところですが、起債の部分については、これは未来のための投資なんだっていうふうに市民が思えるようにしていただければと思います。要望ばかりが多くなる部分もあるんですが、控えれるところは控えたいというところを、私なんか、公民館の現場にいて委員さんたちと話すときに、必ず教育というのは未来の投資であるという風に思いながら、あまり望まず、自分たちのできるどころ、関わりのあるところ、1つ1つの事業の波があると波のところで打ち消し合うようなところ、そういうところの狭間みたいなところを公民館とか地域の者で埋め合わせをする。それから、しっかりと腹落ちするセルフコンテンツ

をするためには、やっぱり静寂っていうのが大事になるんで、しっかり休みの部分を作る、そういう孤独な環境も非常に大事になってくるんで、そういう部分は地域で作ってあげたらなと思っております。

雑駁な感想ですけど、その部分をしっかりアピールができればいいかなと思っております。

(座長)

社会教育関係の飯田市の令和7年度取組、ご説明をいただいて、多くの委員の皆さん方からその充実というお話が出てまいりました。まだまだ感想お聞きしたいところではありますが、時間の関係もありますので、ここで区切りをつけさせていただきたいと思います。

それでは、続きまして(2)令和7年度社会教育関係団体へ交付を予定する補助金の意見聴取について、事務局よりお願いします。

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐)

事務局からご説明します。本件ですけれども、社会教育法第13条におきまして、地方公共団体が社会教育関係団体に対して補助金を交付する、この際には、あらかじめ社会教育員さんの意見を聞きなさいということとなっております。これは、社会教育関係団体に対する補助金について、補助の目的や補助対象等を明らかにしまして、補助の目的はあくまで団体による社会教育活動の支援にあり、団体を支配したり、団体の事業の内容に干渉したりするものではない、そういうことを社会教育委員の皆さんにご確認いただきたい、そのためのものがございます。資料2をご覧くださいまして、まず事務局より一括ご説明をさせていただきます。

その後、ご審議をいただきたいと思っておりますけれども、今回ご審議いただくもののうち、理科実験ミュージアム運営事業補助金、これにつきましては、交付団体として予定しております南信州おもしろ科学工房の代表者が委員の一人でありますことから、本事業の審議のみその方には離席いただきましてご審議いただきたいと思っております。その後、他の補助金につきまして一括審議という段取りで進めたいと思っております。

(座長)

では、早速説明をお願いします。

(福澤学校教育課長)

飯田市PTA連合会運営補助金でございます。補助の目的は、ご覧いただいたとおり、家庭、学校、地域で支え合い、自ら考えは判断する力や豊かな心や健やかな体など生きる力をしっかりと持ち、次世代を担う地域の一員となるこどもの育成活動への補助でございます。主な今年度の活動実績はご確認いただければと思います。補助金の見込額は10万円です。

(後藤生涯学習・スポーツ課長)

続きまして、理科実験ミュージアム運営事業補助金でございます。

補助の目的につきましては、科学実験を通して科学や理科の楽しさや不思議さを学ぶことで興味、関心を持てるようになる人材の育成でございます。交付団体は南信州飯田おもしろ科学工房でございます。交付団体の具体的な活動内容につきましては、そちらに記載のとおりでございます。補助金の見込額

につきましては105万円となっております。

続きまして、新規でございまして飯田市公認地域クラブ活動支援補助金でございます。現時点ではまだ仮称となっております。補助の目的でございますが、中学校部活動の地域クラブ活動への移行を進めるにあたりまして、飯田市公認地域クラブを広く募集をいたしまして、中学生などが行う文化芸術・スポーツ活動の持続的運営体制の構築を図るために補助金を出していきたいとするものでございます。交付団体でございますが、これから公募をかけていくということもございまして、これからそのクラブが立ち上がっていく、そんなこともございまして、これからそういった公認地域クラブを作りたいというところに対して出していきたいというものでございます。現時点では、予算上は20団体を予定しておりますけれども、それを超える応募があったような場合は、補正等で対応して数ができるだけ多くなるようにしていきたいと考えております。具体的な活動の内容でございますけれども、資料記載の①、②、③のいずれかの要件を満たす団体につきまして交付対象としていきたいということを予定しております。まずは、今の部活動の競技に位置づけられているものを優先的に交付をし、その上で中学生のニーズがある種目、例えばダンス、バドミントンもそうなんですけれども、そうした団体についても交付をしていくという予定であります。令和7年度の当初予算としては200万円を見込んでいますところでございます。

(下平文化財保護活用課長)

続きまして、文化財保護事業補助金でございます。補助の目的は、重要無形民俗文化財遠山霜月祭の後継者育成、交付団体は、上村遠山霜月祭保存会、遠山霜月祭保存会になります。具体的な活動内容はご覧のとおりです。補助金見込額につきましては、それぞれの団体に対し28万円ずつということになります。

(牧内歴史研究所副所長)

続きまして、歴史研究活動費助成金事業でございます。歴史研究活動を行う団体や人材の育成と研究活動の奨励を目的とした補助金でございます。飯田下伊那地域を対象としました歴史研究活動を行う団体または個人を対象に公募し、内容を審査の上、交付決定をいたします。今年度は、戦後の農村社会における住民活動をテーマに研究した大学生への交付を予定しております。令和7年度につきましては、補助率を2分の1に変更しまして、5万円を、個人または団体2件分を想定し、予算は10万円としております。

(筒井文化会館長兼新文化会館整備室長)

続きまして飯田市伝統人形芝居振興事業補助金でございます。補助の目的に関しましては記載のとおりでございます。交付団体は、今田人形座と黒田人形保存会でございます。交付団体の具体的な活動内容といたしまして、令和6年度はまだ報告上がっておりませんので、令和5年度の実績を記載してございます。それぞれの人形座において保存、継承、伝承を行うための費用ということでございます。補助金の見込額は、それぞれの団体に53万2千円ということになっております。

続きまして、飯田市市民舞台芸術創造支援事業でございます。補助の目的といたしましては、ここに記載のとおり、市民の皆さんの舞台芸術に関して創造事業を支援する内容ということでございまして、交付団体の見込といたしますと、市内で活動されていらっしゃるアマチュアの舞台芸術団体またはその連合体ということで、小中学校、高等学校も含めて連携した団体ということで支援をするものでございます。参考までに、交付団体の具体的な活動で、令和6年度に交付を行った団体ということがございます。過去には、

小学校、中学校の吹奏楽の活動の皆さんへ交付を行ったこともございます。補助金の見込額等は、総額で97万円となっております。

(榎村美術博物館副館長)

続きまして、伊那谷の自然と文化研究費補助金でございます。

伊那谷の自然と文化に関する調査研究について、市民が行うものに対して補助をするということでございます。地域の学習、学術、文化の振興を図るとともに、飯田市美術博物館を行う事業に資するためということになっておりまして、こちらの方は公募によるものでございますので、社会教育関係団体には限らない補助金でございます。補助金の見込額は40万円ということになっております。具体的な活動内容としましては、令和6年度としましては、伊那谷自然友の会とや柳田國男記念民族学研究所、それから研究団体協議会の3団体が補助金を受けているという状況でございます。

(座長)

ありがとうございました。それでは、協議に入りたいと思いますが、先ほどお話ありましたように、〇〇委員、離席をお願いします。

(〇〇委員離席)

(座長)

それでは、皆さん、ご意見ございますか。

(委員)

去年の秋ですが、小学校で出前授業を見させてもらいました。5年生がロケットかな、それからドライアイスでお花を凍らせて、みんなの前で1人1人1人、私までお花持たせてもらって、凍らせてパンと割れるのを体験させてもらったんですけども、その時に、単にロケット飛ばして面白かったじゃなくて、ちゃんと地球の話、地球が1メートルだったら海は1ミリとか、そういう壮大な宇宙の話もされていました。それから、JAXAのこと、失敗したこととか出発するところのこととか、月面ロボット、タカラトミーのものですけれども、それを持ってきて、みんなの前でみせてくれたりして、こどもたちの目がキラキラして、ほんとに身を乗り出して見てたんです。そういうのを見ると、地域の人が育てるっていうのは、学校で担任の先生が教科書でやるべきことがあるけれども、その隙間を埋めてくれる。新聞やニュースを大人も最近あまり見ないけれども、地域の方がこのように説明してくれているのを目の当たりにしまして、飯田市はこういうことなんだなと思いました。

この場を借りても申し上げると、飯田市の地域人教育、本当にいいと思うんですけども、いわゆるグローバルな視点とか、今どこの教育委員会でも言ってるプログラミング教育とか英語教育とかって、そういうことは一切謳ってないんですけども、地域から隙間ではなく、計画して教えていただいたら、都会とか世界中で活躍してる人が飯田の出身でたくさんいらっしゃるの、そういう方たちがまた説明してくれると、またぐっと身に染みて分かっていくことなんだなと思いました。なので、とてもこういうことがすごく身近に、こどもたちの記憶の中にも入って行って、一生の思い出になることだなと思いますので、大賛成です。

(座長)

ありがとうございました。では〇〇委員に戻っていただきます。

(〇〇委員着席)

(座長)

ありがとうございました。随分時間かかってちょっと不安になられたかと思いますが、本当に素晴らしい活動をされているというご意見をいただいております。それでは、残りのところは一括してお願いします。

(委員)

黒田人形について、疑問点を解消させてください。

53万2000円という金額ですが、おかげで黒田人形の活動ができています。先日、暗幕を直していただいたりとか、夏にはエアコンを設置していただいたりとか、伝承館が良くなったと思います。それっていうのは、資料1の23ページのどこにある伝統人形芝居保存伝承活動の支援、そちらの方から出ているという理解でよろしいのでしょうか。

(筒井文化会館長兼新文化会館整備室長)

文化会館が管理してる施設ということで、委員おっしゃったように、黒田人形へ支援するお金とは違います。施設の費用は別途文化会館で予算化しています。

(委員)

勘違いしている人もおりましたので、理解いたしました。ありがとうございました。

(座長)

そのほか、いかがでしょうか。

(委員)

私、中学生の部活動の地域以降の方にも出ており、このお話は聞いてたのですが、今改めて読んでみて、例えば、理科クラブを作りたいなど思った時に、今、飯田下伊那には理科クラブが1つありません。この時に、ここに書いてあるのは、市内に存在する学校部活動にある種目、分野のクラブと書いてあるんですよね。おそらくスポーツ系のことがメインなので、文科系って今あまり活動が少ないので、実際にあるクラブっていうのが少ないと思います。だから、そういう何かやりたい、部活を新しいの作りたい、子どもたちがやりたいのを作りたいと言った時に、ここのところの1文をちょっと変更していただければ、ないところも、今年と言わず来年でもいいんですけれども、ないものっていうのも可能性として残しといていただきたいなっていうのを思いました。

(後藤生涯学習・スポーツ課長)

今のご意見でございますけれども、資料の③。生徒のニーズがある種目、分野のクラブという項目に該当してくると思いますので、基本的には10名以上生徒さんが集まれば対象となることとなります。しかしな

がら大前提として、公認地域クラブの認定を受けることが必要です。そうすると、厳しくなってくることもありますけれども、ご意見を聞く中で、生徒さんを受け入れるクラブが多くできることを目的としておりますので、そういったクラブが設立されて運営ができるような補助メニューにしていきたい。一方で、悪用する方々も出てくるとお考えいただけますので、バランスをどう取るかっていうところで、要綱作りで悩んでいます。

(座長)

よろしいでしょうか。時間も過ぎましたので。ありがとうございます。

それでは、(3)その他ですが、前半いただいた報告の中で何かありますでしょうか。

(発言する者なし)

(座長)

ありがとうございます。それでは、事務局へお返しをします。

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐)

慎重にご審議いただき、ありがとうございます。司会を戻させていただきます、私の方で以後進めさせていただきます。

5 教育委員会各課・館・所からの連絡・報告事項

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐)

お手元にお届けしましたチラシ等を中心に説明させていただきます。

(下平文化財保護活用課長兼考古博物館館長)

チラシ「発掘された飯田2024」をご覧ください。リニアの調査の成果の一端を皆さんに見ていただくように、考古博物館のエントランスで開催します。速報展のみの観覧は無料です。チラシの写真は、右側の真ん中辺のアスファルトのところがりニア駅です。延長線上の天竜川のところに橋脚があるのがわかります。お時間ありましたら御覧いただけるようご案内いたします。

(筒井文化会館長兼新文化会館整備室長)

文化会館から何点かお願いいたします。

まず、当日配布させていただいたチラシ、4月5日、6日、黒田人形の奉納公演ということで、文化会館としても支援をさせていただいております。チラシの裏面には、上郷地区の皆さんが黒田人形を見る会実行委員会を結成されまして、県立の歴史館の笹本先生を講師として、50周年記念講演ということで、神と人をつなぐ人形というテーマで日曜日の日に講演もあるということでございます。先日は、黒田人形の保存会の皆さんが高校生の発表会もされておりまして、私どもプレスリリースのお手伝いをさせていただきましたけれども、非常に良い内容だったということで、地元でこういった伝統芸能に触れた皆さんがゆくゆくは何かの機会に戻ってきた時に、是非こういった伝統芸能を支える側になってほしいということの思いも込めて、企画されているということですので、ぜひ上演を見ていただければと思っております。

あと、事前に配布しておりますものが3点ございます。

まず、人形劇の定期公演、3月16日に予定されております。こちらはいいだ人形劇センターのプロデュースで新しい人形劇が誕生いたします。飯田市は、SDGsですとかゼロカーボンに力を入れておりますけれども、ゼロカーボンに関しての啓発の人形劇です。これをきっかけに、市内の小中学校ですとかいろんな団体にゼロカーボンの啓発を行っていきたいということでお時間あればぜひご覧いただければと思っております。

続きまして、オーケストラと友に音楽祭でございます。今年は5月3日から6日が音楽祭ということで、毎年社会教育委員の皆さんにも見学いただいております。今年5月4日に音楽クリニックを見ていただくということで計画しております。コロナ禍を経まして、鑑賞いただく人数が増えておりますけれども、特徴的なことは、中学生、高校生の音楽クリニックの受講生が増えてきているということでございます。小中学生の人数が減っているにもかかわらず、昨年、中学生の音楽クリニックが過去最高を更新しまして、今年もさらにその上に行く人数ということで、嬉しい悩みとして、クリニックの発表が文化会館のホールの舞台に乗り切れないのではということで、一部、高校生の部門と一緒にやる形で工夫しようと考えています。決してこの音楽祭で、プロを養成するわけではありませんが、アフィニスのふるさととして何年もやっている中で、中学生、高校生がこの音楽祭に関わり、将来飯田に戻ってきたいとか、飯田に戻ってきた時に演奏または支える側としてボランティアに関わるということを通して、ようやく成果が見えてきたかなと思います。

最後でございますけれども、新文化会館整備室からニュースレターをお届けしました。新しく委員になられた方には基本構想をお届けしてないかもしれませんが、ニュースレターの下に基本理念を書いてあります。「みんなが集い、創り、伝える感動の飯田ひろば」ということを目指して、今基本計画を策定しています。開いていただきますと、今年度2回専門家会議を行いまして、12月には整備検討委員会を行っております。ここ2～3年でかなり状況が変わってきておりまして、1番は建設費の高騰、日本国内でも文化会館と同じ程度のホール建設を予定していたところが中断をしたり、大規模改修に方向転換をしたりという変化がここ1～2年で起きてきております。基本構想をどう具現化するか、飯田市は今一体の整備に加えて、施設を分散して段階的に整備する方法も含めて検討するということになっています。昨日も議会の一般質問の中で、こういったことに関しても非常に興味を持って質問いただいております。手法に関して、専門家委員の皆さんや整備検討委員の皆さんと一緒に考えているということをご承知おきいただければと思います。裏表紙ですが、整備検討委員会と並行して、市民の皆さんとのワークショップも行っております。こちらは、これまで文化会館に全く関係がなかった皆さんにも集うをキーワードに、どうしたら文化会館が集える場所になれるかということで、様々なご意見をいただくワークショップを行っております。こちらの方も、ホームページまたはニュースレターでお伝えをしていきますのでご承知おきください。

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐)

報告は以上となります。次第の裏面をご覧ください。

6 新年度の日程(予定)

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐)

新年度の日程を参考として載せてございます。ご確認ください。

7 その他

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐)

その他ですが、事務局の方からは特にございませんが、委員の皆様の方からあればご発言いただければと思います。よろしいでしょうか。

8 閉会

(本島生涯学習・スポーツ課長補佐)

以上をもちまして、令和6年度社会教育委員会議第2回定例会を閉じさせていただきます。